

参考資料 2

基本目標の状況（令和 2 年 10 月末時点）

第 2 期教育等の振興に関する施策の大綱の基本目標に係る測定指標等について

「知」の目標の状況

「徳」の目標の状況

「体」の目標の状況

掲載したデータは、令和 2 年 10 月末時点でのデータです。

なお、全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動状況等調査結果については、東日本大震災の影響により全国的な調査が行われなかった平成 23 年度、新型コロナウイルスの影響により未実施であった令和 2 年度の結果を除いています。

第2期教育等の振興に関する施策の大綱の基本目標に係る測定指標等について

知・徳・体の各目標の達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、それぞれの目標に測定指標を設定し、PDCAサイクルに基づく進捗管理を徹底

知 (1) 知の分野の目標

子どもたちが社会に出て自らの夢や志を表現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む

<測定指標>

- ①小・中学校
 - 全国学力・学習状況調査 (4月) において、
 - ・小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
 - ・中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
 - 小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率が全国平均以上とする
 - H31 (R元) 年度全国学力・学習状況調査結果
小学校：国 +0.2 算 +1.7 中学校：国 -2.0 数 -1.7
数値は全国平均正答率との差
 - ②高等学校
 - 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする
 - R元年度学力定着把握検査結果 (3年生 4月) : 24.2%
→臨時休業等に伴い、R2年度学力定着把握検査 (3年生) は6月実施
 - 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする
- H30年度卒業生に占める進路未定者の割合 : 5.5%

徳 (2) 徳の分野の目標

社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む

<測定指標>

- 児童生徒質問紙調査 (4月) における道徳性等 (自尊心、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など) に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる
- H31 (R元) 年度全国学力・学習状況調査結果
「自分には、よいところがあると思う」：小学校 82.7% (+1.5) 中学校 73.6% (-0.5)
「将来の夢や目標を持っている」：小学校 84.4% (+0.6) 中学校 74.3% (+3.8)
「学校のきまり (規則) を守っている」：小学校 90.7% (-1.6) 中学校 96.3% (+0.1)
各質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合 () は全国平均との差
- 生徒指導上の諸課題 (不登校、中途退学) の状況を全国平均まで改善させる
- H30年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
・1,000人あたり不登校児童生徒数：小中20.9人(全国16.9人)、高校17.1人(全国16.3人)
・中途退学率：1.7%(全国1.4%)

※不登校については、「横断的取組1 不登校への総合的な対応」の指標として下記を設定
・1,000人あたりの新規不登校児童生徒数
・90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の関係機関等 (医療、福祉、教育支援センター、心の教育センター、SC・SSWなど) の相談や支援を受けている児童生徒の割合

体 (3) 体の分野の目標

生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣を身につけさせる

<測定指標>

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (4月~7月) において、
 - ・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る
- R元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果
(数値はT得点(全国平均=50))
小学校：男子49.3 女子50.0
中学校：男子49.9 女子48.8
- 総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

過去4年間の平均値：H28~R元年度における高知県のDE群の割合の平均値
小学校：男子32% 女子24%
中学校：男子29% 女子14%

<課題> ○4月の全国学力・学習状況調査及び4月~7月の全国体力・運動能力、運動習慣等調査中止に伴い、知・徳・体の各分野における令和年度の実態把握が困難となっている。

新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う本年度の対応について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業日数の減少等による様々な影響を最小限にする (県版調査等を測定指標として活用し、昨年度の水準を確保する)

- 高知県学力定着状況調査 (12月) において測定

・小学校4・5年及び中学校1・2年の国語、算数、数学を前年度と同水準とする

- 高知県学力定着状況調査 児童生徒質問紙 (12月) において測定

・道徳性等 (自尊心、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など) に関する項目の肯定的回答の割合を前年度と同水準とする

- 高知県体力・運動能力、生活習慣等調査 (6月~12月) において測定

・小中学校の児童生徒の体力合計点を前年度と同水準とする
・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値と同水準とする

教育大綱・基本計画の考え方について

「新型コロナウイルスの影響を踏まえた今後の対応について」に掲げる施策を着実に実施し、各学校等への支援を充実させること等を通じて、まずは、子どもたちの学びを平時の状況まで取り戻すことを当面の目標とする。

一方、本県の教育改革の歩みを止めることがないよう、第2期教育大綱・第3期基本計画に基づく取組を、学校の実態等も踏まえながら推進することで、知・徳・体のそれぞれの基本目標の実現を目指す。

測定指標



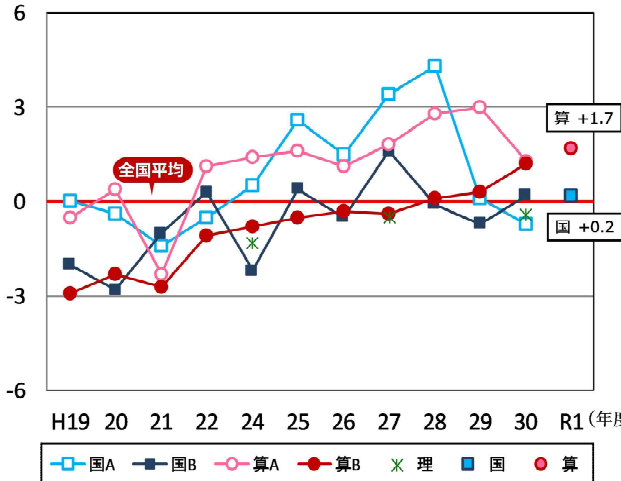
全国学力・学習状況調査において、

- ・小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
- ・中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
- ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

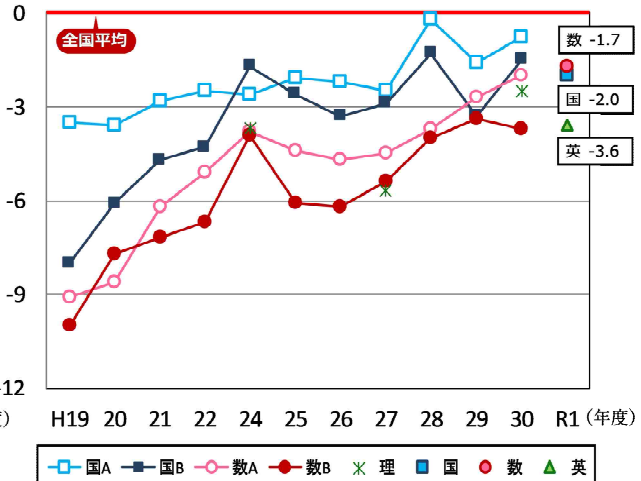
■全国学力・学習状況調査結果 (H19~H31 (R1) 年度)

◇本県と全国の平均正答率の差 (教科、問題別)

(P) 小学校 (第6学年)



(P) 中学校 (第3学年)



◇本県と全国の平均正答率の差 (評価の観点) : H31 (R1) 年度の結果

評価の観点		小学校	中学校
国語	国語への関心・意欲・態度	60.4 (+2.8)	74.9 (-1.6)
	話す・聞く能力	73.2 (+0.9)	69.1 (-1.1)
	書く能力	55.6 (+1.1)	81.5 (-1.1)
	読む能力	82.3 (+0.6)	70.2 (-2.0)
	言語についての知識・理解・技能	52.5 (-1.0)	63.4 (-4.3)
算数・数学	数学的な考え方 (小)	63.1 (+0.9)	51.1 (+0.1)
	数学的な見方や考え方 (中)	76.3 (+2.7)	58.5 (-5.4)
	数量や図形についての技能 (小)	72.5 (+2.4)	69.1 (-2.2)
	数学的な技能 (中)		
	数量や図形についての知識・理解 (小)		
	数量や図形などについての知識・理解 (中)		

() は全国平均正答率との差

※平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は東日本大震災の影響により全国調査未実施、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により全国調査未実施

※令和元年度は、A 問題(主として「知識」に関する問題)と B 問題(主として「活用」に関する問題)を一体的に問う調査となった。

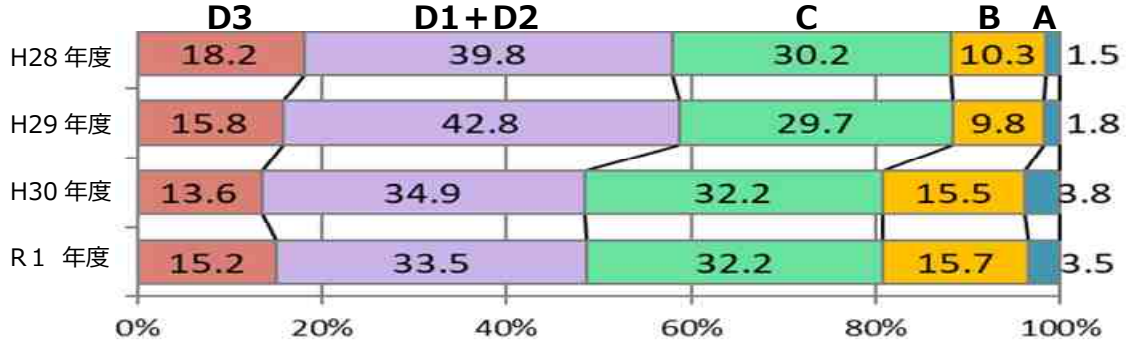
- 小・中学校の学力の状況は、全国学力・学習状況調査が始まった平成 19 年度からは改善傾向にあります。
- 小学校は、近年、国語の知識・技能の定着に伸び悩みが見られますが、令和元年度の調査結果では引き続き全国上位に位置しています。
- 中学校は、国語・数学ともに改善傾向を維持し、令和元年度の調査結果では全国平均まであと一歩という状況にありますが、英語については全国平均との差がやや大きくなっています。
- 評価の観点でみると、中学校では、国語の「言語についての知識・理解・技能」や数学の「数学的な技能」において、全国との差が大きくなっています。



高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

■ 学力定着把握検査結果

◇ 2年生1月の調査結果

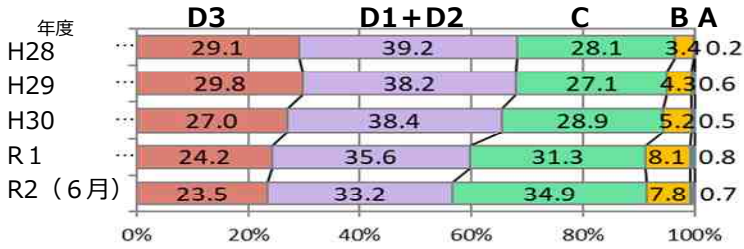


※数値は学力定着把握検査 I (29校) の結果 (その他7校では別検査を実施)
 ※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり (なお、学力定着把握検査 I における学習到達ゾーンの最高値はA2であり、A1~S1は存在しない)

■ 学力定着把握検査の結果のうち、進学に重点を置く学校を除く県立高等学校 29校のものを見ると、学習内容が十分定着しておらず、進学や就職の際に困難が生じることが予想される生徒の割合 (以下「D3層の生徒の割合」という。) は、令和元年度の2年生で 15.2%となっており、前年度からは増加しているものの、各校の取組により減少傾向となっています。また、C層以上の割合も増加傾向にあります。

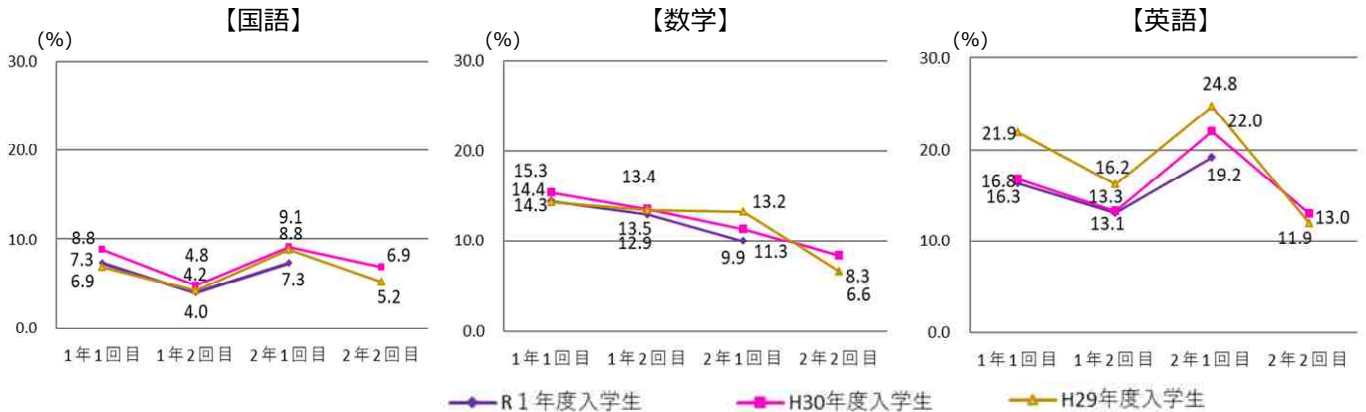
〈参考〉 第2期基本計画の測定指標：高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる

◇ 3年生4月の調査結果 (学力定着把握検査 I (29校) の結果)



学習到達ゾーン (GTZ)	進路選択肢	
	進学	就職
Sゾーン S1~S3	難関大学合格レベル (最難関大学はS1)	上場企業等の大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
Aゾーン A1~A3	国立大学合格レベル	
Bゾーン	B1	公立大学合格レベル (一般入試)
	B2~B3	国立大学の推薦入試に合格可能で、私立大学の一般入試では選択肢が広がるレベル
Cゾーン C1~C3	私立大学・短期大学・専門学校の一般入試に対応可能なレベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
Dゾーン	D1	就職試験に必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をすうえで支障が出る人が多い
	D2	上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い
	D3	筆記試験が課される企業では不合格になることが多い

◇ 教科別にみたD3層の占める割合の推移 (2年生)



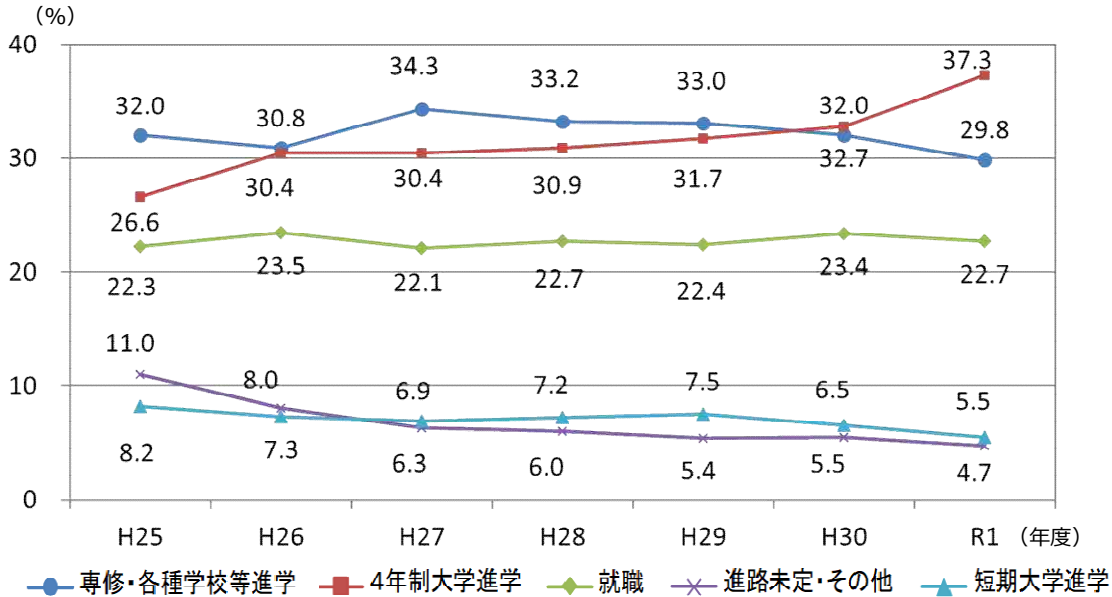
※県高等学校課調査 (国の「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けた測定ツールを活用)

■ 教科別に見ると、国語と英語では、高校範囲の出題の割合が増加する2年1回目にD3層の生徒の割合が増加していますが、2年2回目には再び減少しています。数学では、回を追うごとにD3層の生徒の割合が減少しています。



高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況

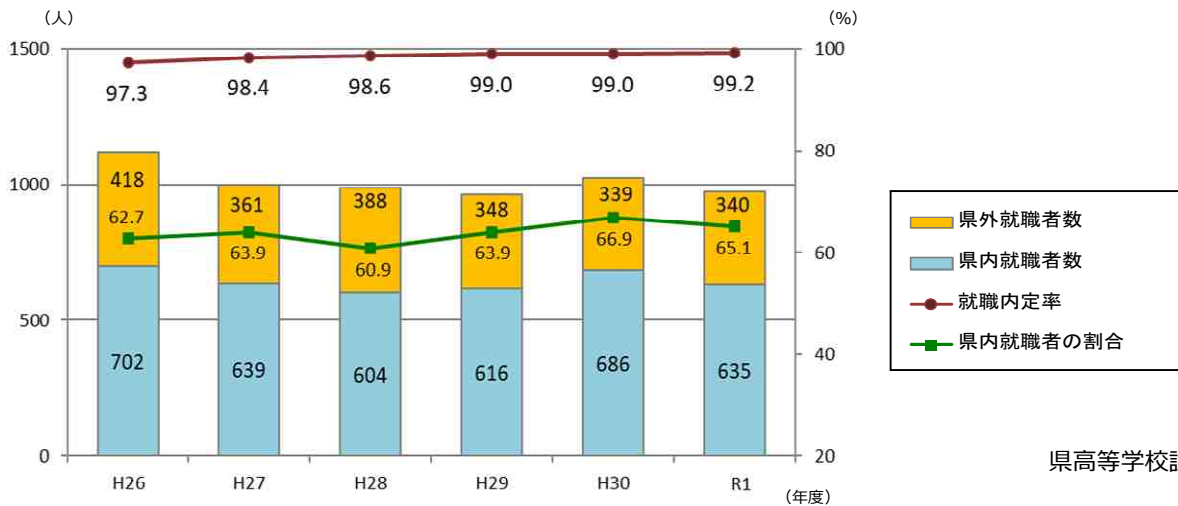


※就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合

※進路未定には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む

県高等学校課調査

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時制）の就職の状況



県高等学校課調査

- 公立高等学校卒業者の進路の状況について、進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にあり、平成25年度の11.0%から令和元年度は4.7%と半減以上しています。
- 4年制大学の進学者の割合は、徐々にではありますが着実に増加しており、令和元年度は37.3%となっています。
- 就職内定率が着実に改善してきたことにあわせ、県内就職者の割合も上昇傾向にあり、近年は60%を超えています。

測定指標

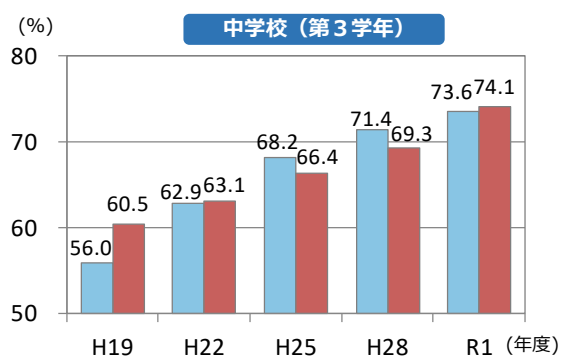
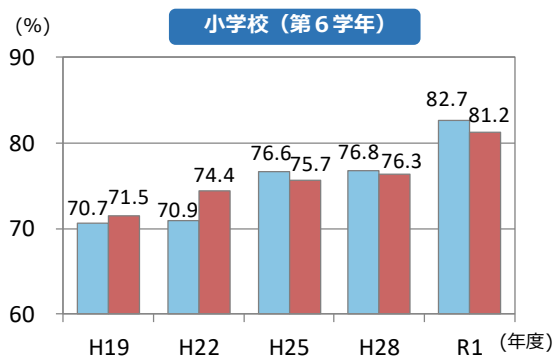


児童生徒質問紙調査における道徳性等（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など）に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

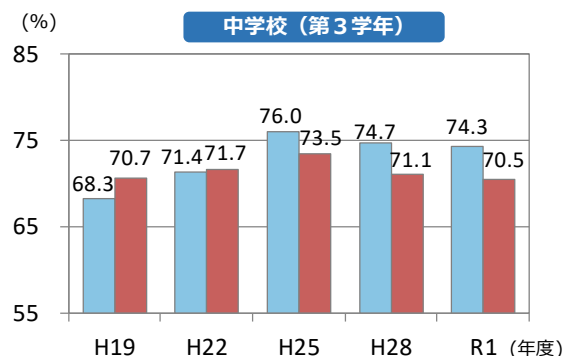
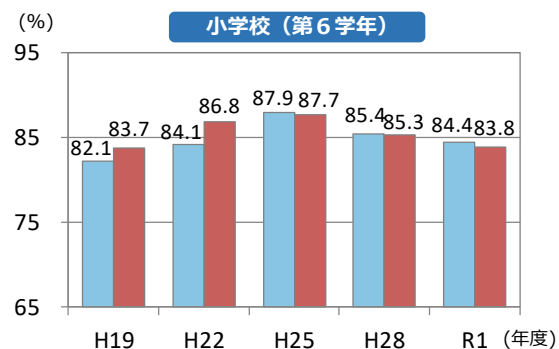
■全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋 (H19,22,25,28,R1 年度)

※各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合 (%)

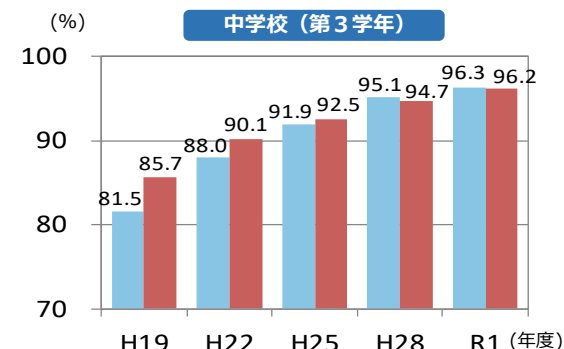
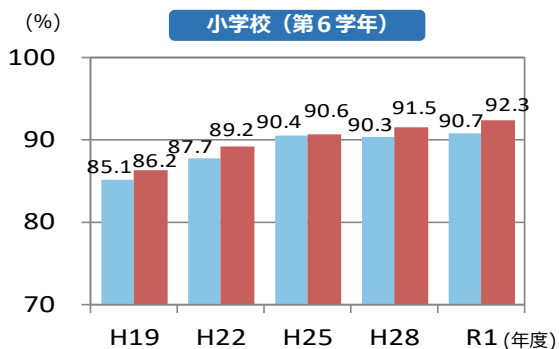
◇自分にはよいところがある



◇将来の夢や目標を持っている



◇学校のきまり（規則）を守っている



■ 高知県 ■ 全国

- 平成 19 年度の調査結果と比較して、いずれの項目においても、肯定的な回答を行った児童生徒の割合は小・中学校ともに増加しています。
- 「将来の夢や目標を持っている」で肯定的な回答を行った児童生徒の割合は、全国平均を上回っているものの、やや減少してきています。



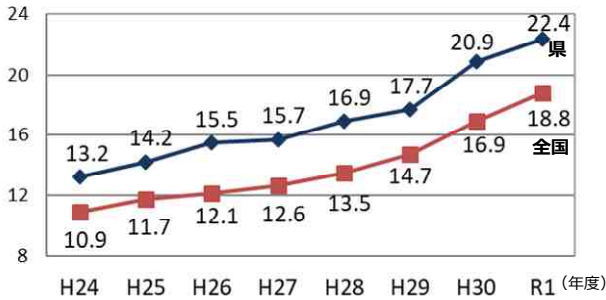
生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる

■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（H24～R1 年度）

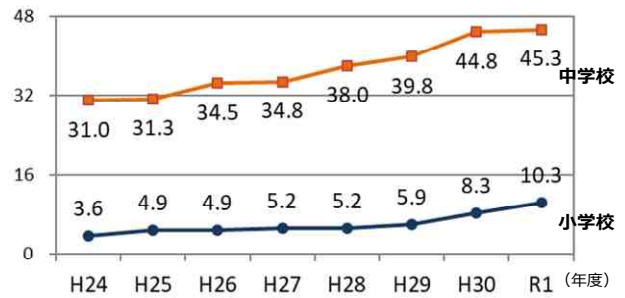
※令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果は R2.10.22 公表

◇ **不登校** ※数値は 1,000 人あたりの不登校児童生徒数（人）

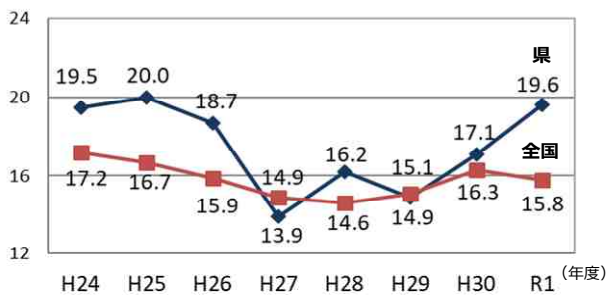
小・中学校（国公立）



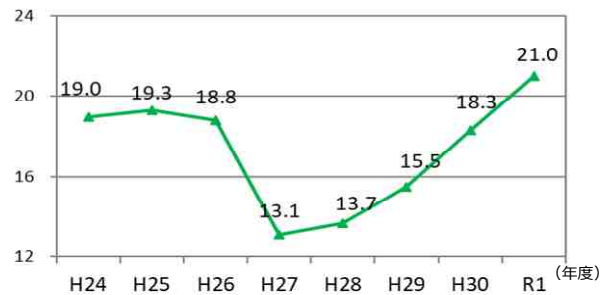
高知県国公立小・中学校（校種別）



高等学校（国公立）

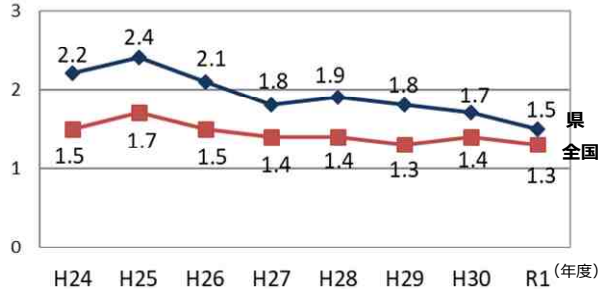


〈参考〉高知県公立高等学校

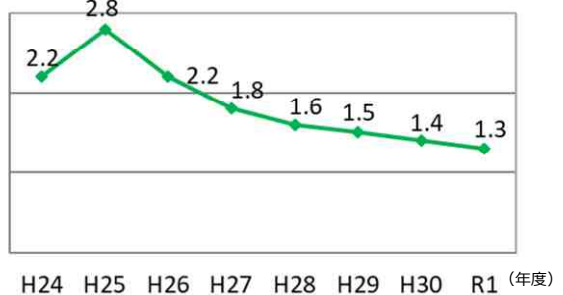


◇ **中途退学** ※数値は%

高等学校（国公立）



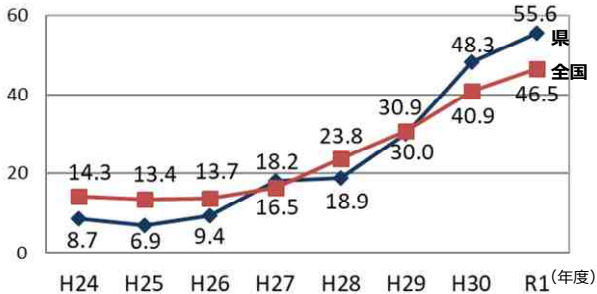
〈参考〉高知県公立高等学校



〈参考〉

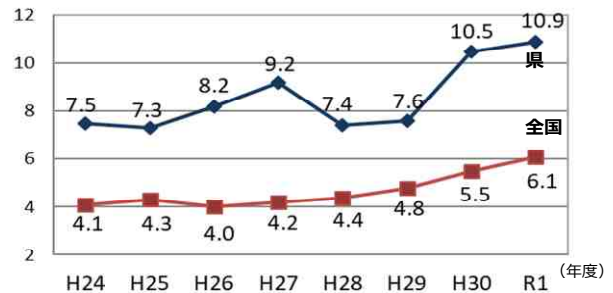
◇ **いじめ** ※数値は 1,000 人あたりの認知件数

小・中・高・特別支援学校（国公立）



◇ **暴力行為** ※数値は 1,000 人あたりの発生件数

小・中・高等学校（国公立）



- 1,000 人あたりの不登校児童生徒数は、小・中学校は、高知県、全国ともに増加しています。高等学校も、平成 28 年度以降増加傾向にあります。
- 高校生（国公立）の中途退学率は、全国平均を上回っているものの、近年は着実に減少しています。

測定指標



全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

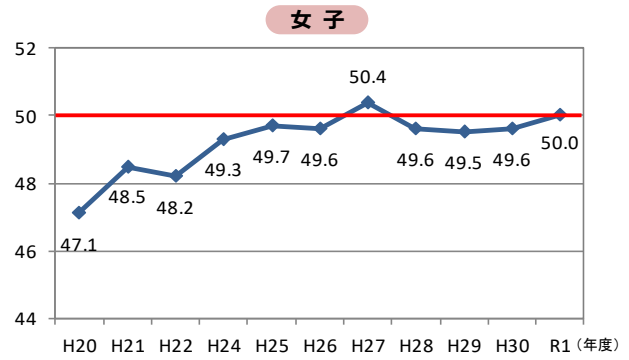
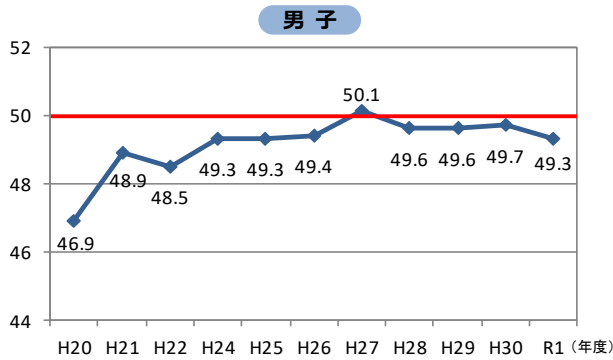
- ・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る
- ・総合評価で DE 群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

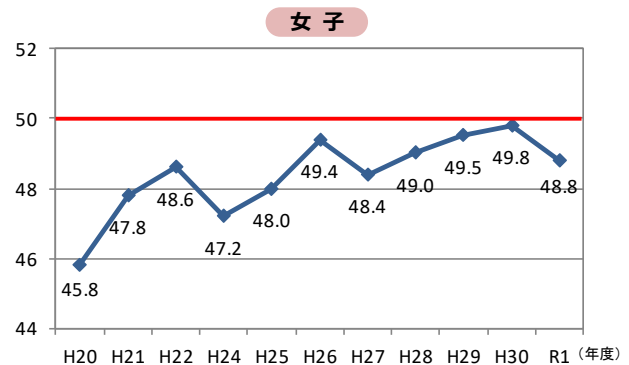
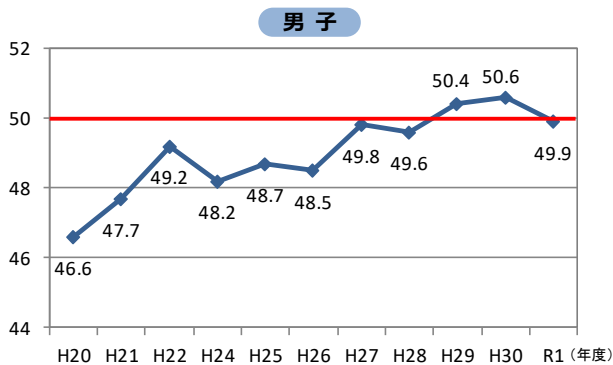
※平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査未実施、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により全国調査未実施
※数値はT得点(全国平均=50)

◇体力合計点(8種目の実技の総合点)の推移(H20~R1年度)

小学校(第5学年)

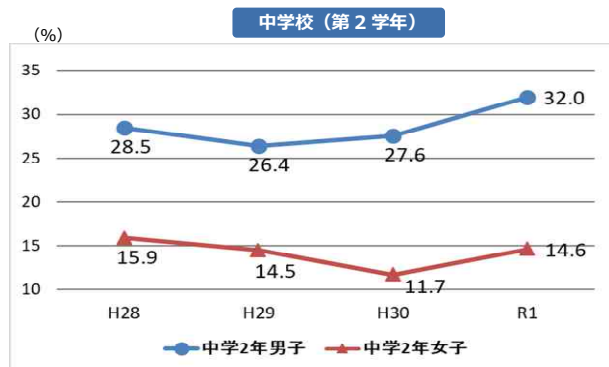
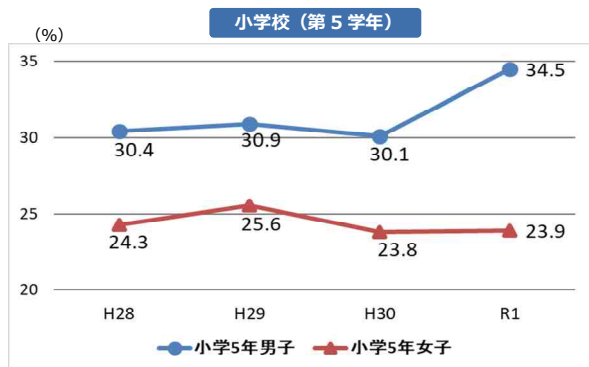


中学校(第2学年)



◇総合評価で DE 群の児童生徒の割合の推移(H28~R1年度)

※総合評価: 体力テスト合計得点のよい方から ABCDE の5段階で評定した体力の総合評価



- 小・中学校の体力・運動能力については、平成20年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、男女ともに全国最低水準でしたが、その後は改善傾向にあります。
- 平成27年度の小学校は全国平均を上回ったことから、前大綱では全国上位を目標としていましたが、計画の期間(H28~R1年度)においては、小・中学校、男女ともにほぼ全国水準に達したものの、継続的に全国平均を上回るまでには至っていません。
- 令和元年度総合評価で DE 群の児童生徒の割合は、小・中学校ともに、男子は30%を超えています。(※過去4年間の高知県 DE 群の割合の平均値 小学校:男子32%、女子24% 中学校:男子29%、女子14%)